人工衛星WorldView-2がとらえた「仁徳陵古墳周辺」(2)

データ提供：日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社
データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

前掲の画像から「仁徳陵古墳（5世紀中頃）」を中心とした領域を切り出してみました。青、緑、赤色プレーンに、それぞれ「Green、Red、Near Infrared 1」に対応する波長帯で観測されたデータを割り当てたフォールスカラー合成画像(Pan-sharpened image：地上分解能0.5m／画素として処理）です。植生領域が赤色に発色します。仁徳陵古墳は我が国最大の前方後円墳として知られています。墳丘は3段、墳丘長486m、後円部の径249m、高さは35mと報告されています。画像を見ると、三重の「周濠」や大型古墳の周囲に作られる「陪塚（竜佐山古墳、孫太夫山古墳等)」もはっきりと判読できます。WorldView-2の軌道高度は770㎞であり、遙か宇宙からこのような精度で古墳群を見ることができます。古墳群周辺の環境モニタリングは言うまでもなく、遠い昔の人々の足跡を広域にわたって分析するための支援情報の一つとして、リモートセンシングデータの活用が期待できます。

過去の「国土の姿を見る」画像集は次のURLでご覧いただけます。http://www.jacic.or.jp/books/jacicjoho/kokudo/kokudo_index.html